Honda発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店またはサービス店**にお気軽にお申し付けください。

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機で安全かつ能率的な運転をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書には、発電機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
発電機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、発電機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の指示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱い説明書について
この説明書は
—運転をするときには、必ず携帯してください。
—発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
—紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店、サービス店にご注文ください。
仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

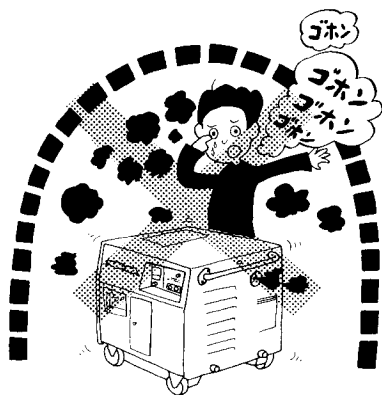
目　　次

安全にお使いいただくために

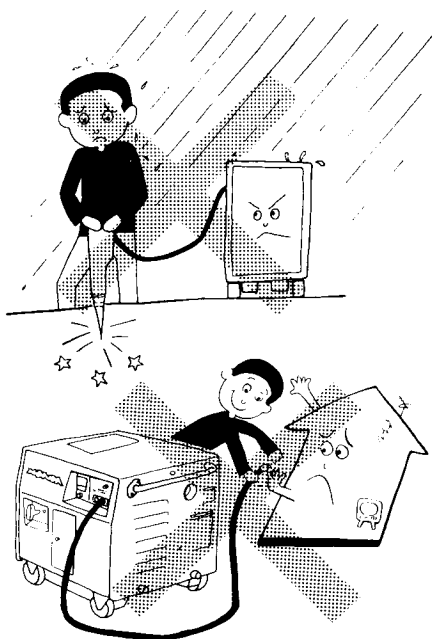
警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

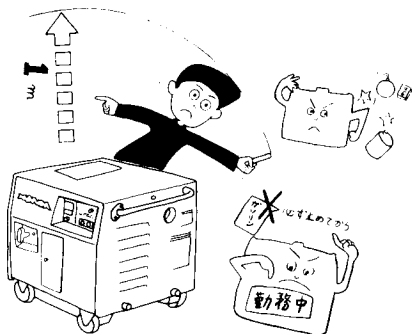
●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- この発電機は車載用として製造はしていませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転する前に点検しましょう」(17～22頁)を行ってください。事故や本機、使用器具の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
  換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。

これだけはぜひ守りましょう

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは、エンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給しているときは、タバコを吸ったり、炎や、たき火などの火気を近付けないでください。
- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
- 発電機は平坦で堅い場所に置いて使用してください。
  小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟かい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や使用器具の故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。
  本機や使用器具が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。
  雨や水で濡れた発電機や使用器具を使用したり、また濡れた手で操作すると感電することがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
  本機や使用器具を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因となります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

警告

●使用中は

- 使用中は建物およびその他の設備から１m以上本機を離してください。
  発電機から出る排気ガスは熱くなります。まわりに危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（わらくず、紙くずなど）は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。本機や使用器具に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。

- 使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラなどが非常に熱くなります。エンジン本体やマフラなどに触れないでください。やけどなどの傷害を起こします。
- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
  燃料漏れや振動による自然移動、転倒による本機や使用器具の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性があります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申し付けください。
- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、本機から使用器具のコンセントを外してください。
  いたずらなどで使用器具が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。

警告

●使い終ったら

●発電機を水洗いはしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

● 長期保管前には、燃料タンク、キャブレータ（気化器）内の燃料を抜き取り、発電機を火気や、湿気、凍結のおそれのない所に保管してください。抜き取ったガソリンは火災や爆発の危険性がありますので適切な処理をしてください。

● 各部の点検、清掃は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを〝停止〟位置にし、点火プラグ キャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

安全ラベル

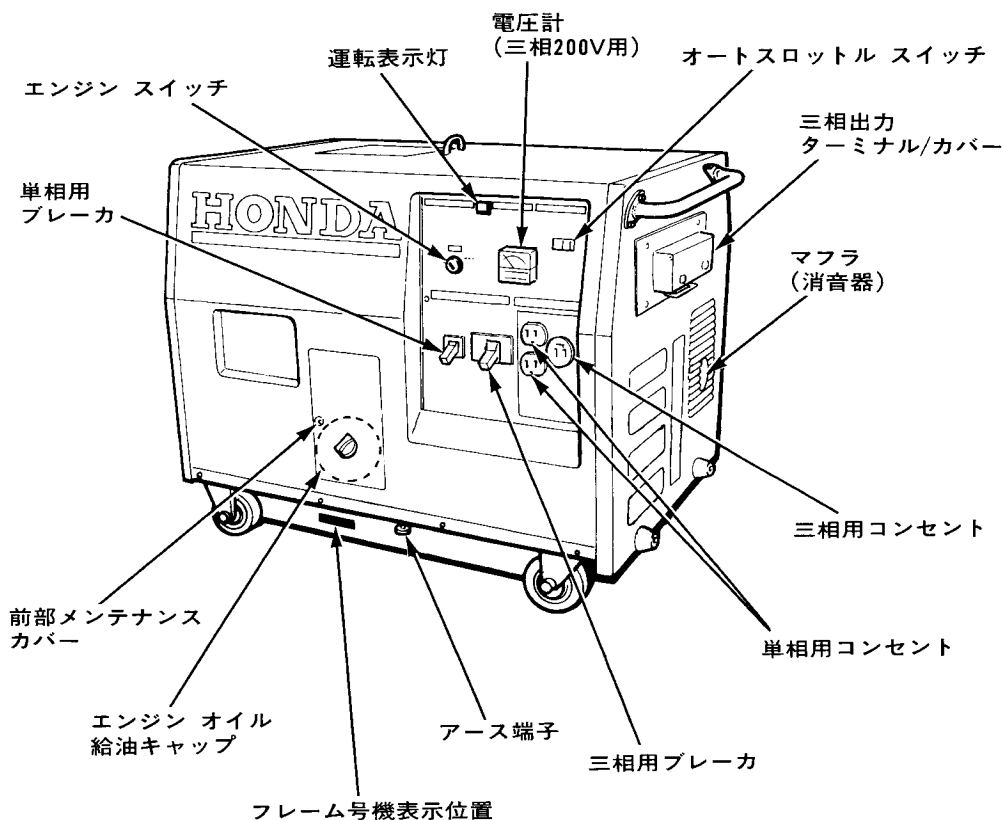
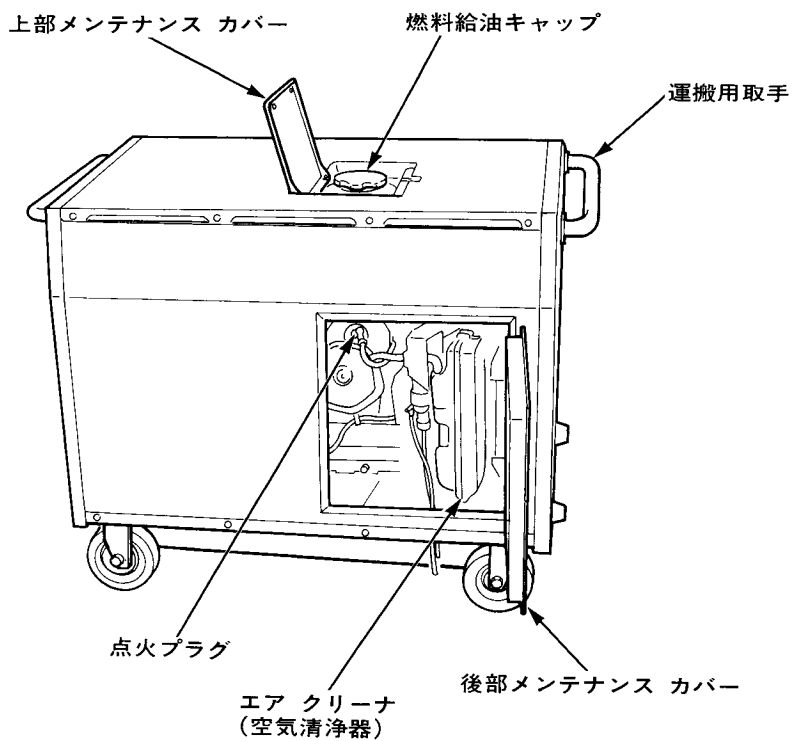
発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。

安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

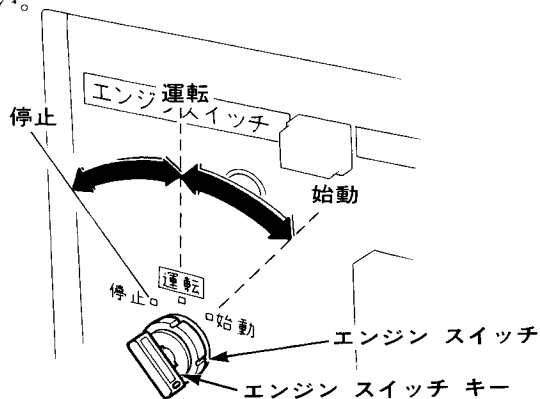
ラベルは、はっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

上部メンテナンス カバー
燃料給油キャップ
運搬用取手
点火プラグ
エア クリーナ
(空気清浄器)
後部メンテナンス カバー

エンジン スイッチ

発電機を始動、運転、停止させるときに操作します。

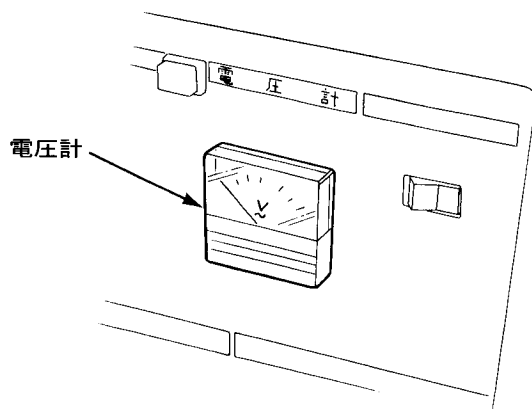
発電機を運転しないときはエンジン スイッチ キーを抜取って紛失しないよう保管してください。

オイル アラート機構

エンジンにはオイル アラート機構(焼付き防止エンジン自動停止装置)が内蔵されているため、運転中にオイルが不足すると、エンジンは自動的に停止します。

エンジン オイル量を点検し、補給してください。(点検、補給は19頁参照)

オイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイル アラート機構が働き、エンジンが停止することがあります。

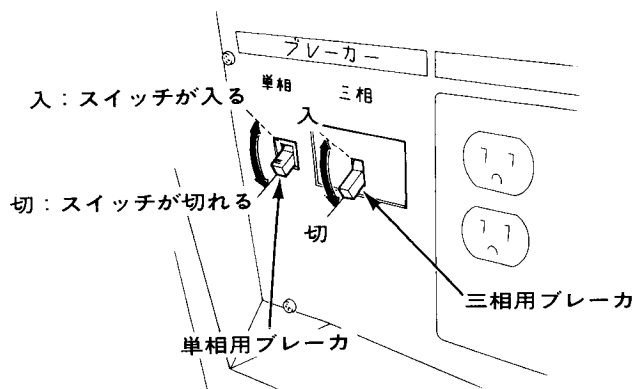
電圧計(三相200V用)

発電機の発生電圧を表示します。

ブレーカ

交流回路を保護します。

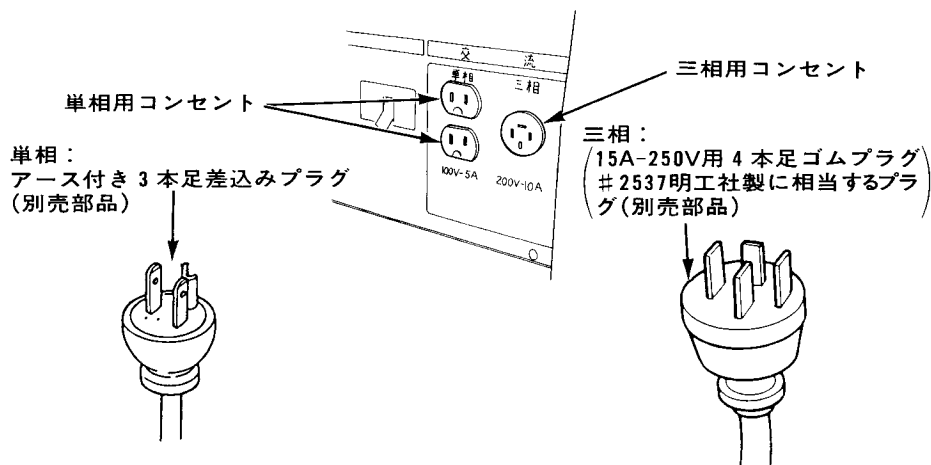
発電中に使用器具に異常があった場合や過負荷のときにブレーカが切れ、電気が取出せなくなります。

使用する電気器具は必ず定格出力内で使用してください。主要諸元（49頁）、使用できる範囲（50頁）を参照してください。

ブレーカが切れた場合はすぐ〝入〟にしないで接続器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからブレーカを〝入〟にします。

交流コンセント

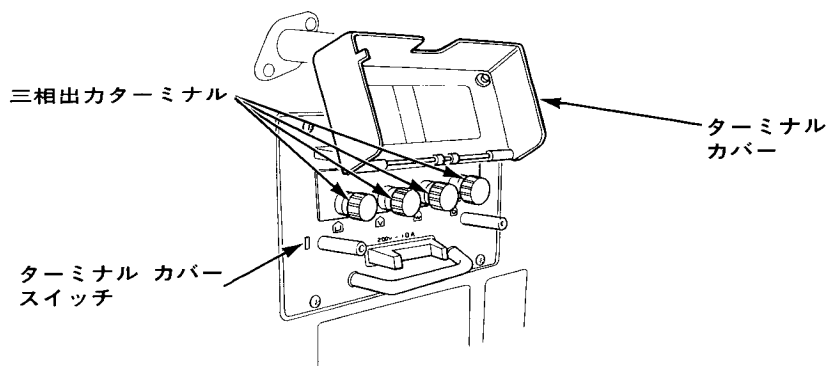
交流電気を取出すところです。

コンセントへプラグを差し込む場合は、接触不良、抜けのないよう確実に行なってください。

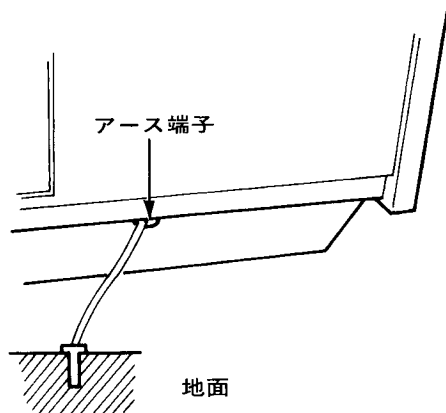
・差込みプラグは、下記を使用してください。

三相出力ターミナル／カバー

三相出力ターミナルは三相の電気を取出すターミナルです。

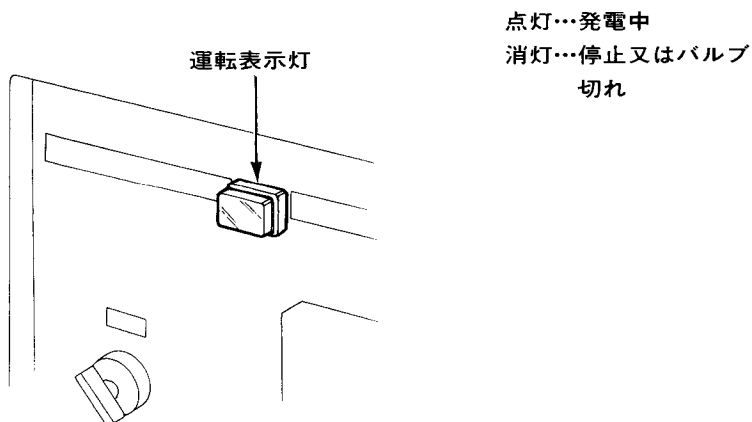
結線後カバーをし、締付けボルトを確実に締付けてください。カバーが完全に閉じていないとカバー スイッチが働きエンジンは始動しません。

・三相ターミナルの取扱いは電気工事資格者が行ってください。

アース端子

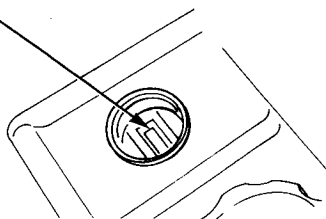
発電機を地面にアースする端子です。

接続電気器具をアースした時は、発電機も必ずアースしてください。

運転表示灯(パイロット ランプ)

発電機のエンジンが運転していることを表示するランプです。

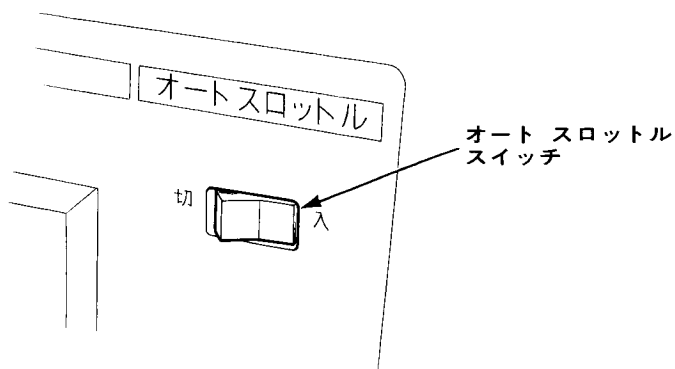
点灯…発電中
消灯…停止又はバルブ切れ

燃 料 計

燃料の残量を示します。

燃料計の針が〝補給〟に近づいたら早目に補給してください。

オートスロットル スイッチ

オートスロットル機構が作動すると電気を取出してないとき自動的にエンジン回転がさがり、電気を取出しているときには定格回転になります。

入：オートスロットル機構が作動

切：オートスロットル機構が停止

メンテナンス カバー

・上部メンテナンス カバー

燃料の量を点検、補給するときに開閉します。

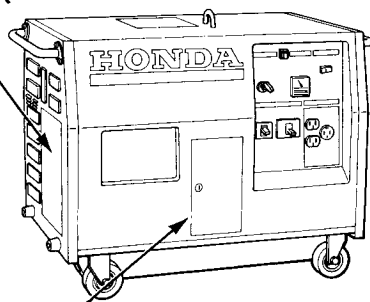
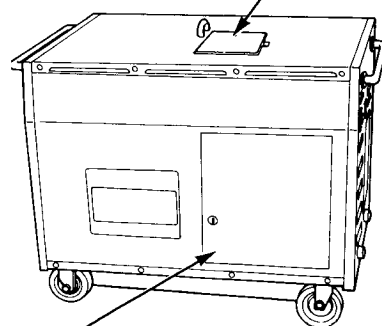
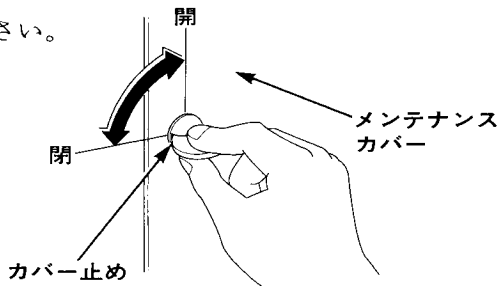
・前部メンテナンス カバー

エンジン オイルの量を点検、補給するときに開閉します。

・後部メンテナンス カバー

エアクリーナを点検、清掃、点火プラグを点検、清掃するときに開閉します。

・左側メンテナンス カバー

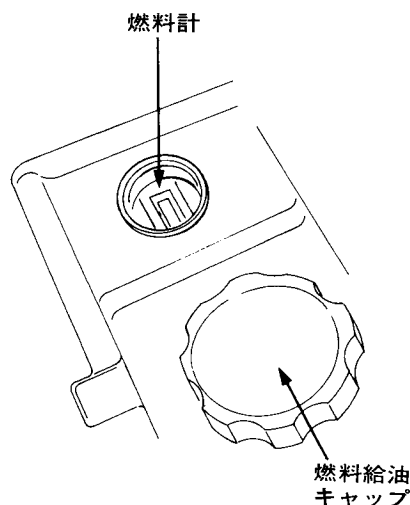
バッテリの点検、取外し、取付け、フューエルストレーナの清掃をするときに開閉します。

前部、後部、左側メンテナンス カバーは硬貨等を使用してカバー止めを開閉し、カバーを開閉してください。

運転する前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外して行ってください。

燃料の点検

点検

上部メンテナンス カバーを開き、燃料計で燃料の量を点検してください。少ない場合は補給します。

補給

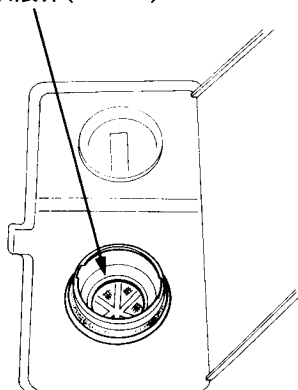
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部品に触れると、静電気を放電することができます。

⚠警告

・燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全に拭き取ってください。拭き取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は口元まで入れず所定のレベルまで補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

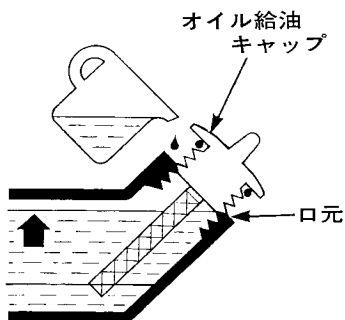
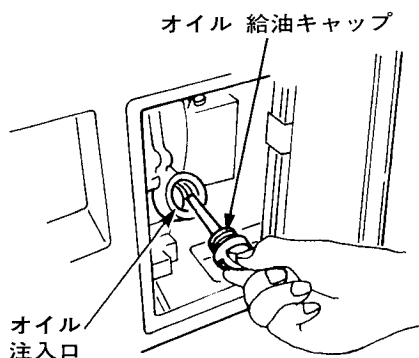
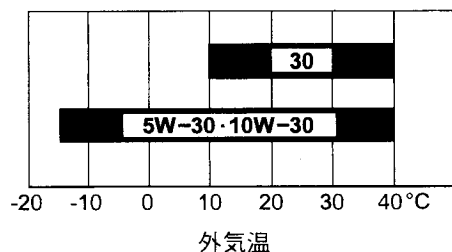
・燃料給油キャップを外し、注入口の給油限界位置（レベル）を越えないように燃料を補給します。給油限界位置（レベル）より上に補給すると燃料が漏れることがあります。
・補給後、キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
・ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジン オイルの点検

点検

前部メンテナンス カバーを開き、オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

・汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は34頁参照）

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

補給

・少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。

・推奨オイル：4ストローク ガソリン エンジン オイル
Honda 純正 ウルトラ U 汎用（SAE10W-30）
または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

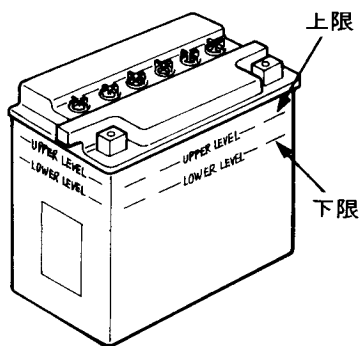
バッテリ液の点検

⚠警告

- バッテリを取扱うときは風通しの良い所で、ショートによる火花に注意してください。また火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

点　検

左側メンテナンス カバーを開き、バッテリの液面が上限(UPPER LEVEL)と下限(LOWER LEVEL)の間にあるか点検してください。
同時に端子の締付け、キャップの通気孔のつまりを点検してください。

補　給

- 少ないときはバッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER LEVEL)まで補給します。補給はバッテリを発電機から取外して(43頁参照)行ってください。

取扱いのポイント

バッテリ液を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐蝕させる原因となります。上限(UPPER LEVEL)以上蒸留水を入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。(但し、発電機には水をかけないでください。)

エア クリーナ (空気清浄器) の点検

点検

1.後部メンテナンス カバーのカバー止めを外しカバーを開きます。

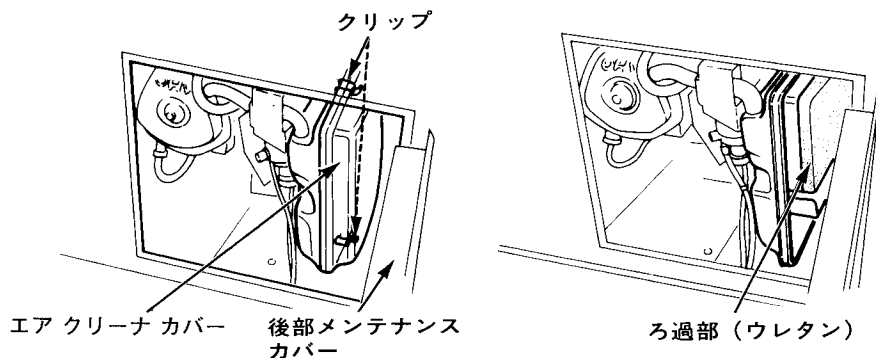
2.クリップを起こして、エア クリーナ カバーを外します。

3.ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。

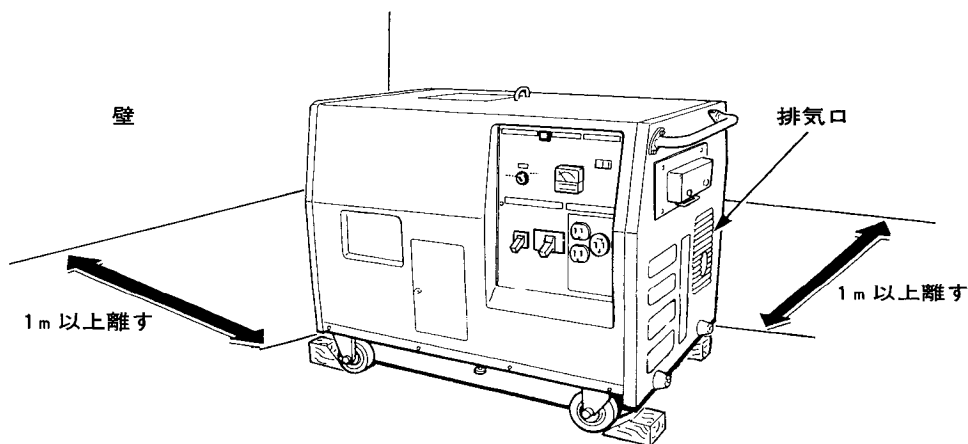
汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン)の清掃をします。(清掃方法は36頁参照)

4.エア クリーナ カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン)が取付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン)などは確実に取付けてください。

5.後部メンテナンス カバーを閉めます。

発電機周辺の点検

・燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
・建物、および他の設置物から１m以上離れていますか。
・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
・排気口は風通しの良い、広場に向けてありますか。
・周囲に火の気はないですか。
・発電機をダンボール等で囲っていませんか。
・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、軟らかい所では使用しないでください。やむを得ず使用する場合は発電機の下に板等を敷いて本機を安定させてください。
・傾斜地では使用しないでください。
・カバー類は確実に閉じていますか。
・木や石などで確実に車輪止めをしてください。
・吸気口が土や石などで遮断されていませんか。

発電機のかけかた

⚠警告

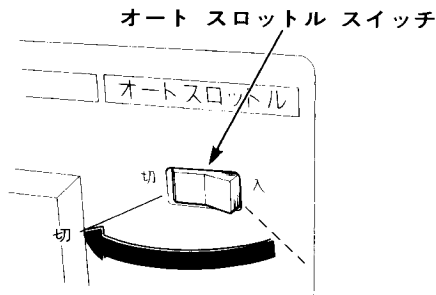
屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあり、ブレーカが〝切(OFF)〃であることを確認してください。使用器具が接続されたままでブレーカが〝入〃になったまま始動すると使用器具が不意に作動を始め思わぬけがや事故を起こす可能性があります。また始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

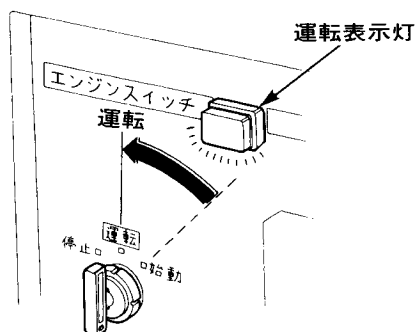
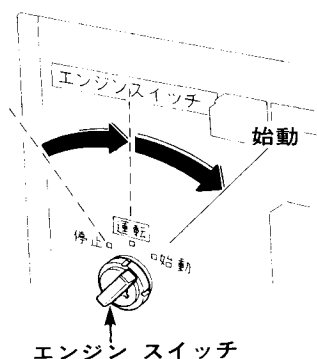
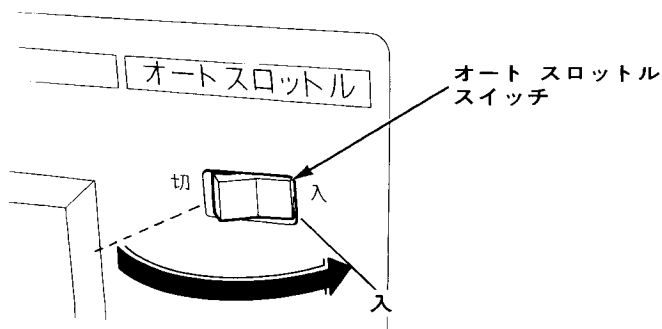
取扱いのポイント

- 初めて燃料を入れた時、又は長期保存、ガス欠後始動する場合には、エンジン スイッチを〝運転〃の位置にして10〜20秒待ってから始動してください。
- 三相出力ターミナル カバーが確実に閉じていることを確認してください。カバーが開いているとターミナル カバー スイッチが働きエンジンは始動しません。

1. オート スロットル スイッチを〝切〃の位置にします。
   オート スロットル スイッチを〝入〃のままエンジンを始動するとエンジン暖機に時間がかかります。〝切〃の位置でエンジンを始動してください。

2．エンジン スイッチを〝始動〃の位置まで回し、エンジンを始動します。

取扱いのポイント

- **セルモータは大電流を消費しますので5秒以上の連続使用は避けてください。5秒以内で始動しない場合は、10秒以上休んでから再び始動してください。**
- **運転中はエンジン スイッチを操作しないでください。始動装置を破損することがあります。**

3．エンジンが始動したら(運転表示が点灯)スイッチから手を離してください。〝運転〃の位置に自動的に戻ります。

4・2～3分間暖機運転を行ないます。暖機運転をするとエンジン回転が安定し、電圧変動がなくなります。エンジンが暖まったら、オート スロットル スイッチを〝入〃の位置にします。

電気の取出しかた

使用器具を接続する前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう〟の項目をよくお読みください。

⚠警告

・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。
火災あるいは人身事故、または本機や使用器具が故障する原因となります。

・発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

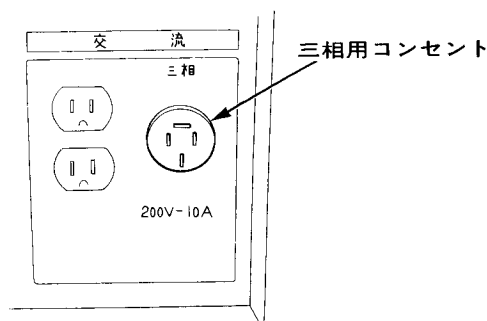
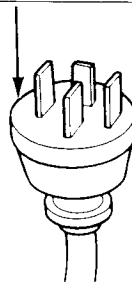
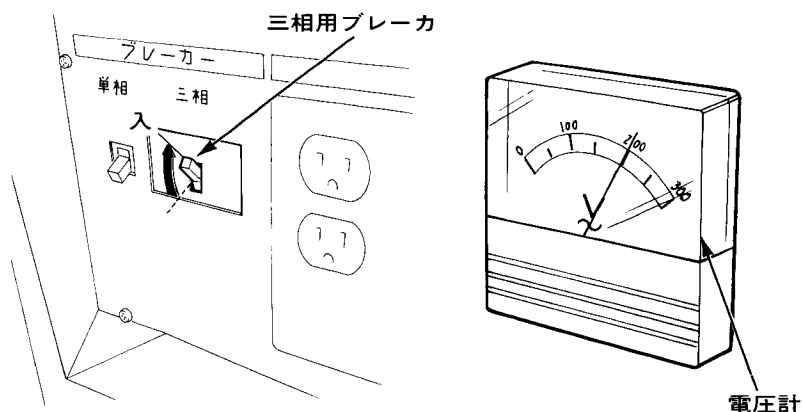
三相

三相用コンセントを使用するとき；

1.〝発電機のかけかた〟に従ってエンジンを始動します。
2.使用器具のスイッチが切れていることを確認し、三相用コンセントへ使用器具のプラグを確実に差込みます。

⚠注意

接続する使用器具のスイッチが〝切〟れていることを確認してください。使用器具のスイッチが〝入〟っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

・差込みプラグは下記推奨プラグを使用してください。

3.三相用ブレーカを"入"の位置に合わせてから使用器具のスイッチを入れます。

電圧計の針が200Vの位置を指していることを確認します。

取扱いのポイント

・J型は10.1A、N型は11.5A以下で使用してください。
・差し込みプラグが引っ張られないように、コードにたるみを持たせてください。
・使用器具によっては過負荷となりブレーカが切れることがあります。使用できる範囲は50頁を参照してください。
・ブレーカが切れた場合はすぐに"入"にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してからブレーカを"入"にしてください。

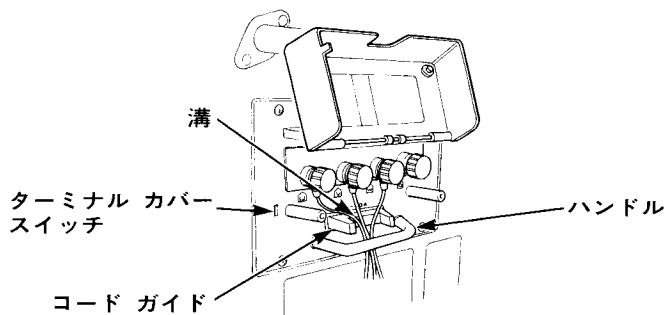
三相出力ターミナルを使用するときは；

⚠注意

- **ターミナルの接続はエンジンを停止して行ってください。**
- **運転中にゆるまないようにターミナルを確実に締付けてください。締付けがゆるいと締付け部より発熱し火災のおそれがあります。**
- **ターミナルの締付け部は露出部があります。結線後はカバーを確実に閉じ締付けボルトを締付けてください。**

・出力ターミナルの接続は、電気工事資格者が行なってください。

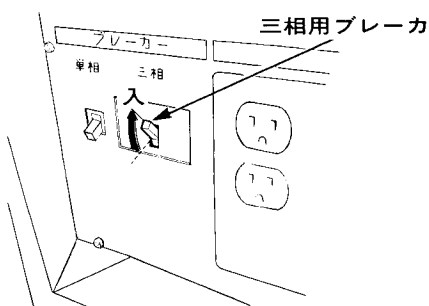
1.出力ターミナルに配線を取付けます。

配線はハンドルの内側を通し、コードガイドの溝に入れてください

取扱いのポイント

U•V•Wの結線には十分注意してください。(まちがうとモーターなどが逆転します。)

2.出力ターミナル カバーを確実に締付けます。

カバーが確実に締っていないとターミナル カバー スイッチが働き、エンジンは始動しません。

3.エンジンを始動し、三相用ブレーカを"入"の位置に合わせてから接続電気器具のスイッチを入れます。

取扱いのポイント

- **使用器具によっては過負荷となりブレーカが切れることがあります。使用できる範囲は50頁を参照してください。**
- **ブレーカが切れた場合はすぐに"入"にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してからブレーカを"入"にしてください。**

単相

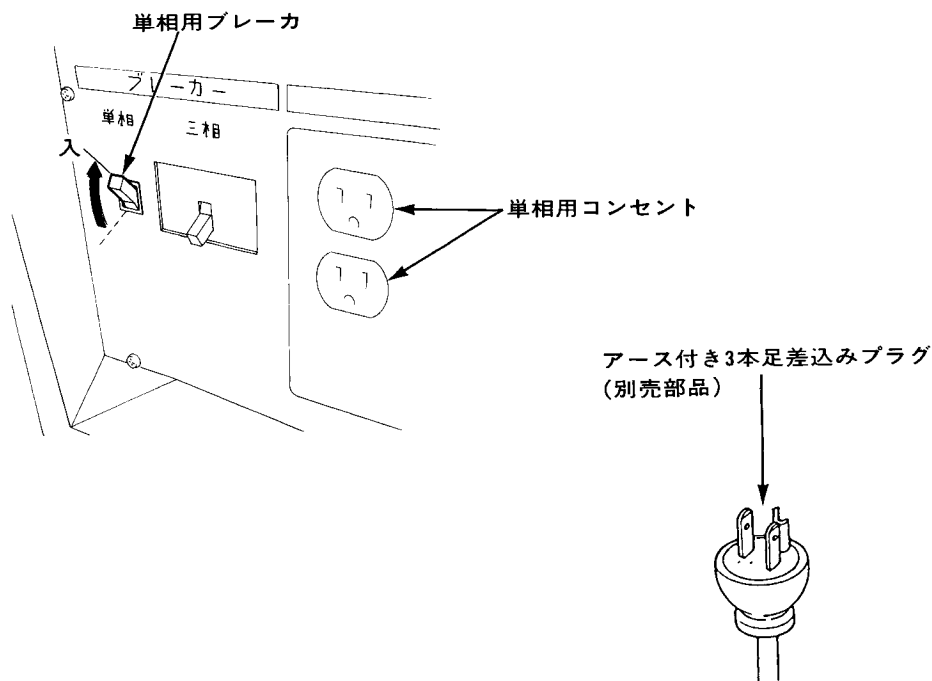
単相コンセントを使用するときは；

1.発電機のかけかたに従ってエンジンを始動します。

2.使用器具のスイッチが切れていることを確認し、単相用コンセントへ接続電気器具のプラグを確実に差し込みます。

⚠注意

接続されている使用器具のスイッチが"切"れていることを確認してください。使用器具のスイッチが"入"っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

3.単相用ブレーカを〝入〟の位置に合わせます。

・差込みプラグはアース付き3本足差込みプラグを使用してください。

4.使用器具のスイッチを入れます。

・2つのコンセントより合計して下記の交流出力が取り出せます。

J型(50Hz)	N型(60Hz)
100V-0.5kVA	100V-0.5kVA

取扱いのポイント

・1つのコンセントは5.0A以下で使用してください。
・三相と同時に使用するときは合計がJ型－3.5kVA、N型－4.0kVAを越えないようにしてください。
・差込みプラグは、アース付き3本足を使用してください。
・差込みプラグが引っ張られないように、コードにたるみを持たせてください。
・使用器具によっては過負荷となりブレーカが切れることがあります。
・ブレーカが切れた場合はすぐに〝入〟にしないで使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎでないか確認してからブレーカを〝入〟にしてください。

三相出力ターミナルを使用するときは；

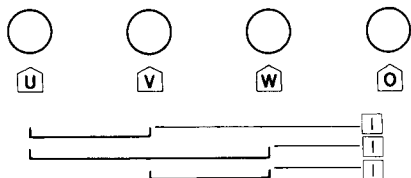
⚠**注意**

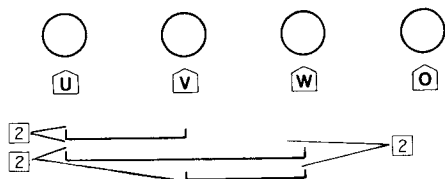
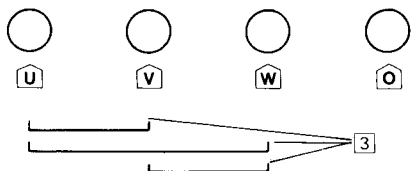
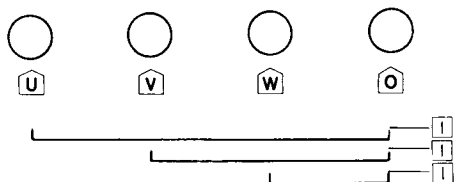
・ターミナルの接続はエンジンを停止して行ってください。
・運転中にゆるまないようにターミナルを確実に締付けてください。締付けがゆるいと締付け部より発熱し火災のおそれがあります。
・ターミナルの締付け部は露出部があります。結線後はカバーを確実に閉じ締付けボルトを締付けてください。

・ターミナルの接続は電気工事資格者が行ってください。

・三相ターミナルを使用して単相200Vと単相115Vの取出しもできます。次頁の手順で接続し使用してください。

接続・使用方法

単相200V

1 1回路のみ使用するときは、
J型－1.3kVA、N型－1.5kVAを越えないでください。
接続：U―V間、U―W間、V―W間のいずれか1回路

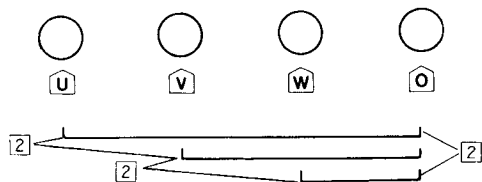
2 2回路を同時に使用するときは、2回路からそれぞれ均等に取り出し、その合計が
J型－2.3kVA、N型－2.6kVAを越えないでください。
接続：U―V間とU―W間
U―W間とV―W間
U―V間とV―W間の
いずれか2回路

3 3回路を同時に使用するときは、3回路からそれぞれ均等に取り出し、その合計が
J型－3.5kVA、N型－4.0kVAを越えないでください。
接続：U―V間とU―W間とV―W間

単相115V

1 1回路のみ使用するときは、

J型－1.1kVA、N型－1.3kVAを越えないでください。

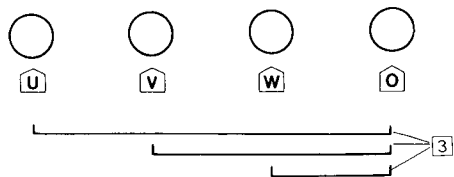
接続：U—O間、V—O間、W—O間のいずれか1回路

2 2回路を同時に使用するときは、2回路からそれぞれ均等に取り出し、その合計が

J型－2.3kVA、N型－2.6kVAを越えないでください。

接続：U—O間とV—O間
V—O間とW—O間
U—O間とW—O間の
いずれか2回路

3 3回路を同時に使用するときは、3回路からそれぞれ均等に取り出し、その合計が

J型－3.5kVA、N型－4.0kVAを越えないでください。

接続：U—O間とV—O間とW—O間

取扱いのポイント

- **単相200Vと単相115Vの同時使用はさけてください。**
- **単相115Vを取り出している時は、単相115Vで電圧に敏感な器具(通信機器等)の使用はさけてください。**

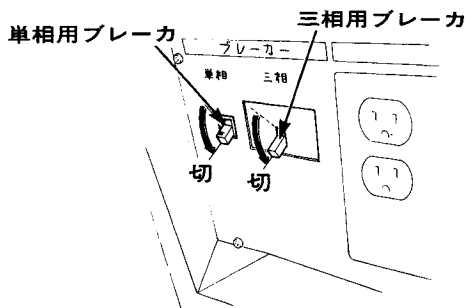
発電機のとめかた

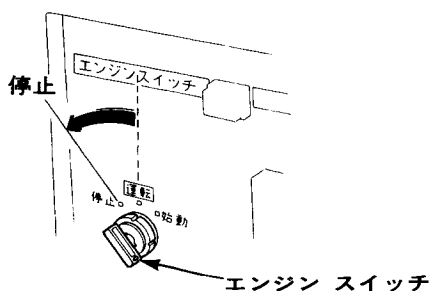
緊急停止

エンジン スイッチを〝停止〟の位置にします。

通常の停止

1.使用器具のスイッチを切ります。

2.ブレーカ（交流）を〝切〟の位置にし、プラグをコンセントから抜きます。

3.エンジン スイッチを〝停止〟の位置にします。

・発電機を使用しない場合はエンジン スイッチ キーを抜取ってください。

⚠警告

発電機を保管するときや点検整備時には燃料漏れを防ぐためにエンジン スイッチを〝停止〟の位置に合わせてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

・三相出力ターミナルは完全にエンジンが停止したことを確認してから接続を外します。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda発電機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために、定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期(3)		作業前点検	1か月目または初回20時間運転目	3か月毎または50時間運転毎	6か月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○		○	
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○(1)		
バッテリ液	点検	○				
フューエル ストレーナ カップ	清掃				○	
点火プラグ	点検				○	
	交換					○
タペット クリアランス	点検					○(2)
燃焼室	清掃	500時間運転毎(2)(4)				
燃料タンク、燃料フィルタ	清掃				○(2)	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(2)				

(1)ホコリの多い所で使用した場合は、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(2)販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
(3)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(4)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

やさしい点検・整備

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ キャップを取外して行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度や、油温が高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

エンジン オイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

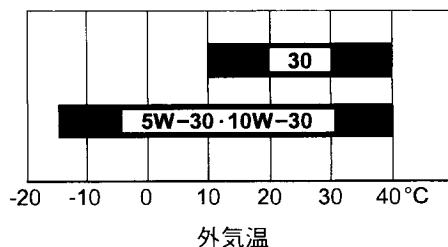
初回:1か月目または20時間運転目､以後:6か月毎または100時間運転毎です。

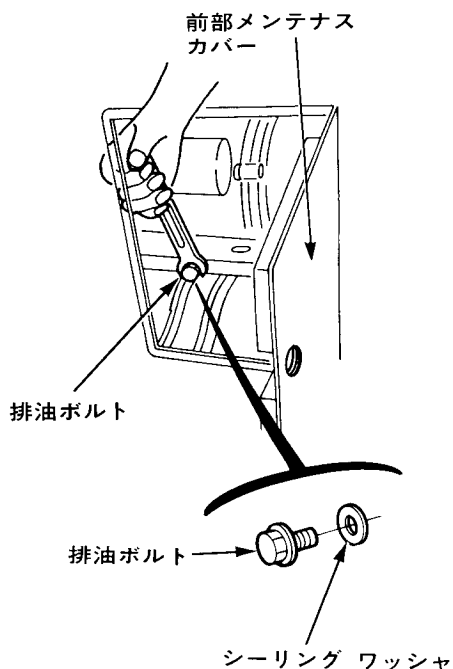
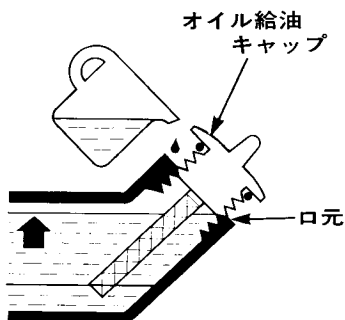
《規定量》 1.1 L

《推奨オイル》 4ストローク ガソリン エンジン オイル

Honda純正 ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

交換のしかた

1. 前部メンテナンス カバーのカバー止めを外して、カバーを開けます。
2. オイル給油キャップを外します。
3. 排油ボルト、シーリング ワッシャを外して、オイルを抜きます。
4. 排油ボルトをきれいにし、新しいシーリング ワッシャを取付け排油ボルトを確実に締付けます。
5. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
6. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。

7. 前部メンテナンス カバーを閉めます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- 外したシーリング ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング ワッシャを使用してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

エア クリーナ（空気清浄器）の清掃

エア クリーナが目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

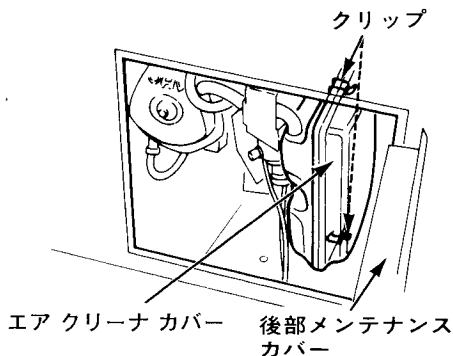
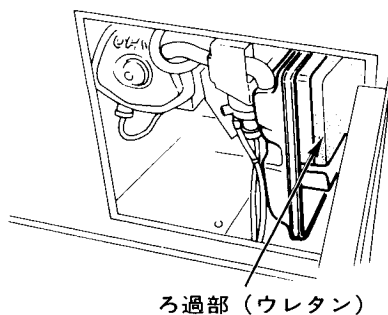
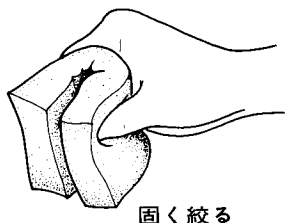
清掃：3か月毎または50時間運転毎

ホコリの多い所で使用した場合は10時間運転毎または1日1回。

清掃のしかた

⚠警告

- **洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。**
- **洗浄は換気の良い場所で行ってください。**

1. 後部メンテナンス カバーのカバー止めを外して、カバーを開けます。
2. 上下のクリップを外して、エアクリーナカバーを取外します。

3. ろ過部(ウレタン)を取外します。

4.　ろ過部（ウレタン）を洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジンオイル(Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30等)に浸し、固くしぼります。

5．ろ過部（ウレタン）とエア　クリーナ　カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部（ウレタン）が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部（ウレタン）が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部（ウレタン）などは確実に取付けてください。

6．後部メンテナンス　カバーを閉めます。

点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ、点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定プラグ以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。

点火プラグの電極が汚れていたり、摩耗、電極の隙間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなり発電機の不調の原因になります。

《点検・調整時期》

点検:6か月毎または100時間運転毎

《交換時期》

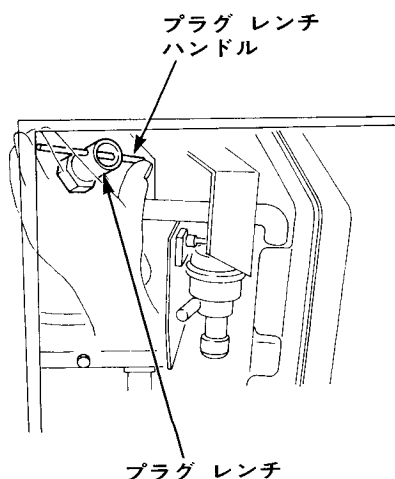
交換：1年毎または300時間運転毎

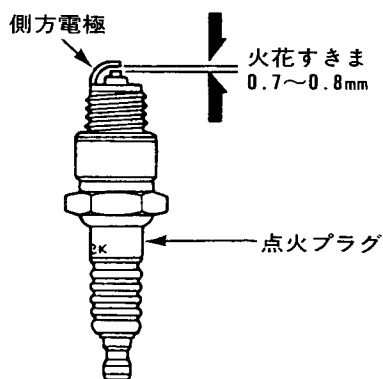
《指定プラグ》

BPR5ES (NGK)

W16EPR-U (DENSO)

点検のしかた

1. 後部メンテナンス カバーのカバー止めを外して、カバーを開けます。
2. プラグ キャップを取外します。
3. プラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで点火プラグを取外します。

4．点火プラグを清掃します。
清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
プラグ クリーナが無いときは針金かワイヤ ブラシで汚れを落としてください。
側方電極を曲げ、火花すきまを0.7～0.8mmに調整します。

5．取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けてください。
6．プラグ キャップを確実に取付けてください。
7．後部メンテナンス カバーを閉めます。

フューエル ストレーナ カップ（燃料ろ過カップ）の清掃

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で行ってください。
・ガソリンはこぼさないでください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全に拭き取ってください。ガソリンを拭き取った布などは火災と環境に注意して処分してください。

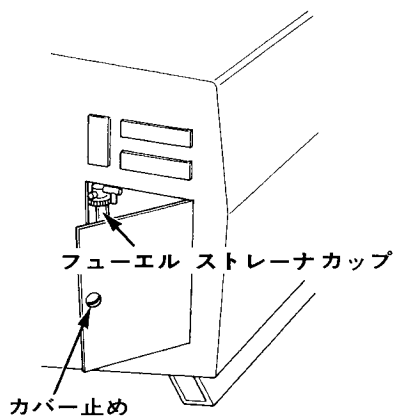
フューエル ストレーナ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

清掃：6か月毎または100時間運転毎

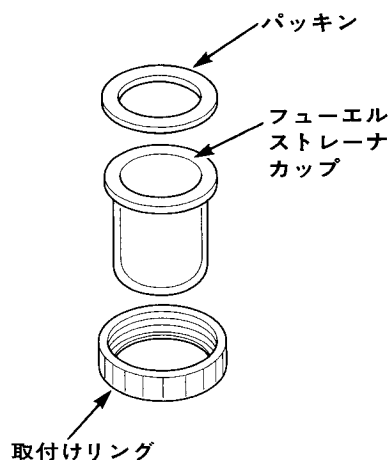
《清掃のしかた》

1．左側メンテナンス カバーのカバー止めを回して、カバーを開けます。
2．エンジン スイッチを〝停止〟にして、取付けリングを左に回して取外します。
3．フューエル ストレーナ カップを洗浄します。

⚠警告

**洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。**

4．清浄後パッキン、カップを元通り取付け、燃料漏れのないよう取付けリングを確実に締付けてください。

5．エンジン スイッチを運転にし、燃料もれの無いことを確認します。

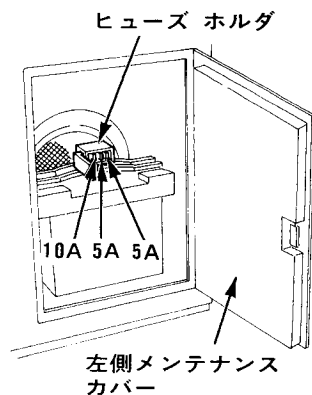
6．左側メンテナンス カバーを閉めます。

ヒューズの交換

ヒューズが切れるとエンジンがかからなくなります。

《指定ヒューズ》

10A、５A、５A

交換のしかた

1．左側メンテナンス カバーのカバー止めを外して、カバーを開けます。
2．エンジン スイッチを〝停止〟にします。
3．ヒューズ ホルダ カバーを外し、ヒューズを交換します。

取扱いのポイント

- **ヒューズが切れたら、ヒューズを交換する前に切れた原因を調べてください。**
- **指定ヒューズ以外の針金、銀紙などを使用すると発電機を焼損させる原因となります。**

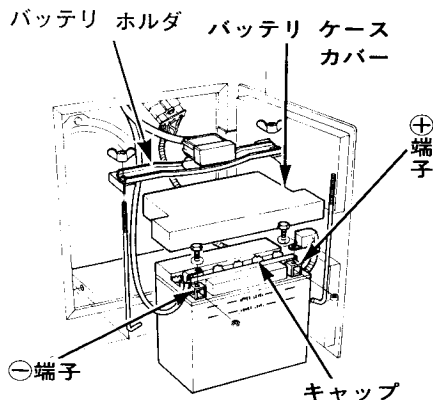
4．左側メンテナンス カバーを閉めます。

バッテリの取外し・取付け

⚠警告

- バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。ショートする場合があります。

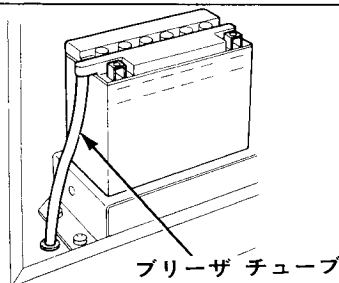
取外し

1. 左側メンテナンス カバーのカバー止めを外してカバーを開きます。(16頁参照)
2. 蝶ナットをゆるめバッテリ ホルダを外します。
3. バッテリ ケース カバーを外し、バッテリを引き出します。
4. バッテリ コードの⊖端子を先に外し、次に⊕端子を外します。

取扱いのポイント

バッテリ コードの取外しは必ず上の手順で行い、取付けは逆の手順で行ってください。誤るとショートする場合があります。

取付け

取外しの逆手順で取付けます。

- ブリーザ チューブをフレームの穴に確実に差込みます。

常時使用しない場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月1回試運転を行ってください。燃料やオイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

- ガソリンは自然劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
- オイルは自然劣化しますので定期点検表（33頁参照）に従い交換してください。

試運転のしかた

1.「運転する前に点検しましょう」に従って、燃料、エンジン オイル、エアクリーナを点検します。
2.「発電機のかけかた」にもとづいて始動します。
3. 照明などの負荷をかけて10分間以上運転します。
4. エンジンの調子、オイル、燃料の漏れ、電圧計、運転表示灯、エンジン スイッチの作動を確認します。

運搬する場合には

発電機を車両等で運搬する場合には、次の事を必ず守ってください。

1.エンジン スイッチを〝停止〟にします。

2.燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。

3.燃料給油キャップを確実に締付けます。

4.発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載し、ロープ等でしっかり固定します。ロープは運搬用取手にかけてください。

・運搬中に発電機を落下させたり衝撃を与えないでください。また発電機の上に重量物をのせないでください。

⚠警告

- **燃料を入れたまま発電機を車両に積載し運搬しないでください。運搬による振動等で燃料が漏れる場合があります。**
- **車室内やトランクに発電機を積んだまま直射日光の当たる場所や高温となる場所に長時間放置しないでください。車両の内部が高温となり燃料が気化し引火しやすい状態になります。**

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れをおこなってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ（気化器）内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ キャップをプラグから取外します。

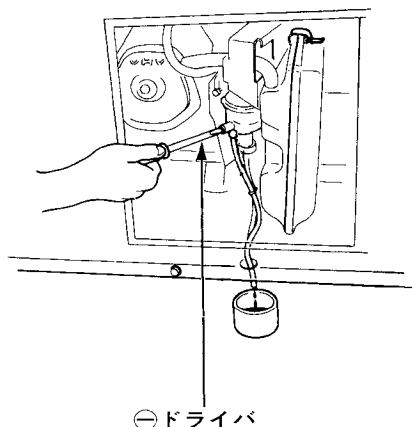
⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ等は非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

1. 発電機の清掃を行います。

⚠警告

発電機を水洗いしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

2. エア クリーナ（空気清浄器）を清掃します。
3. 燃料タンク内の燃料を抜きます。
4. キャブレータ（気化器）内の燃料を抜きます。
   - 1. 後部メンテナンス カバーを開けます。
   - 2. エンジンスイッチを"停止"にします。
   - 3. キャブレータのドレン スクリュをゆるめて燃料が抜けたらドレン スクリュを元に戻します。
   - 4. 後部メンテナンスカバーを閉めます。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- ガソリンはこぼさないでください。万一こぼれた時は、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。

取扱いのポイント

燃料は自然に劣化します。必ず抜いてください。

5. フューエル ストレーナカップ（燃料ろ過カップ）を清掃します。（清掃：40頁参照）
6. バッテリのアース コードをバッテリの⊖端子から外し、ビニールテープなどをまいてください。バッテリは自然放電しますので1ケ月に1回完全充電してください。
7. 本機が移動しないように車輪止めをします。
8. 発電機にシート等をかけ風通しのよい湿気の少ない所に保管します。

取扱いのポイント

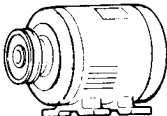
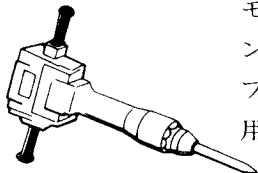
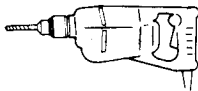
次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申し付けください。

エンジンが始動しないとき

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（23頁参照）
2. 三相出力ターミナル カバーは確実に閉じていますか？
3. 燃料はありますか？（17頁参照）
4. エンジン オイルは規定量ありますか？（19頁参照）
   本機はオイル アラート機構付きです。エンジン オイルが不足していたり発電機が傾いていると、始動グリップを引いてもエンジンはかかりません。
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（38～39頁参照）
   ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

電気が取出せないとき

1. 使用器具に異常が無いか、また電気の取出し過ぎでないか確認してください。
2. 少し時間をおいてからブレーカを〝入〟にしてもう一度確かめてください。

主要諸元

項目	主要諸元	
名称	EXT4000	
型式	EB3	
原動機の形式	強制空冷4ストロークOHV単気筒25°傾斜	
総排気量	337cm^3	
内径×行程	82.0 × 64.0 mm	
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	13.5 L	
潤滑油容量	1.1 L	
始動方式	スタータモータ	
発電部型式	2極界磁回転型	
機体形式	フルカバードタイプ	
寸法		
全長	910mm	
全幅	530mm	
全高	695mm	
乾燥質量（重量）	122kg	
出力	J型	N型
定格出力	3.5kVA	4.0kVA
定格周波数	50Hz	60Hz
三相電圧	200V	200V
三相電流	10.1A	11.5A
単相電圧	100V	100V
単相電流	5.0A	5.0A
電圧調整方式	トランジスタAVR方式	
出力端子	（三相） 3極コンセント 陸式ターミナル （単相） アース付2極コンセント	

この諸元は予告なく変更することがあります。

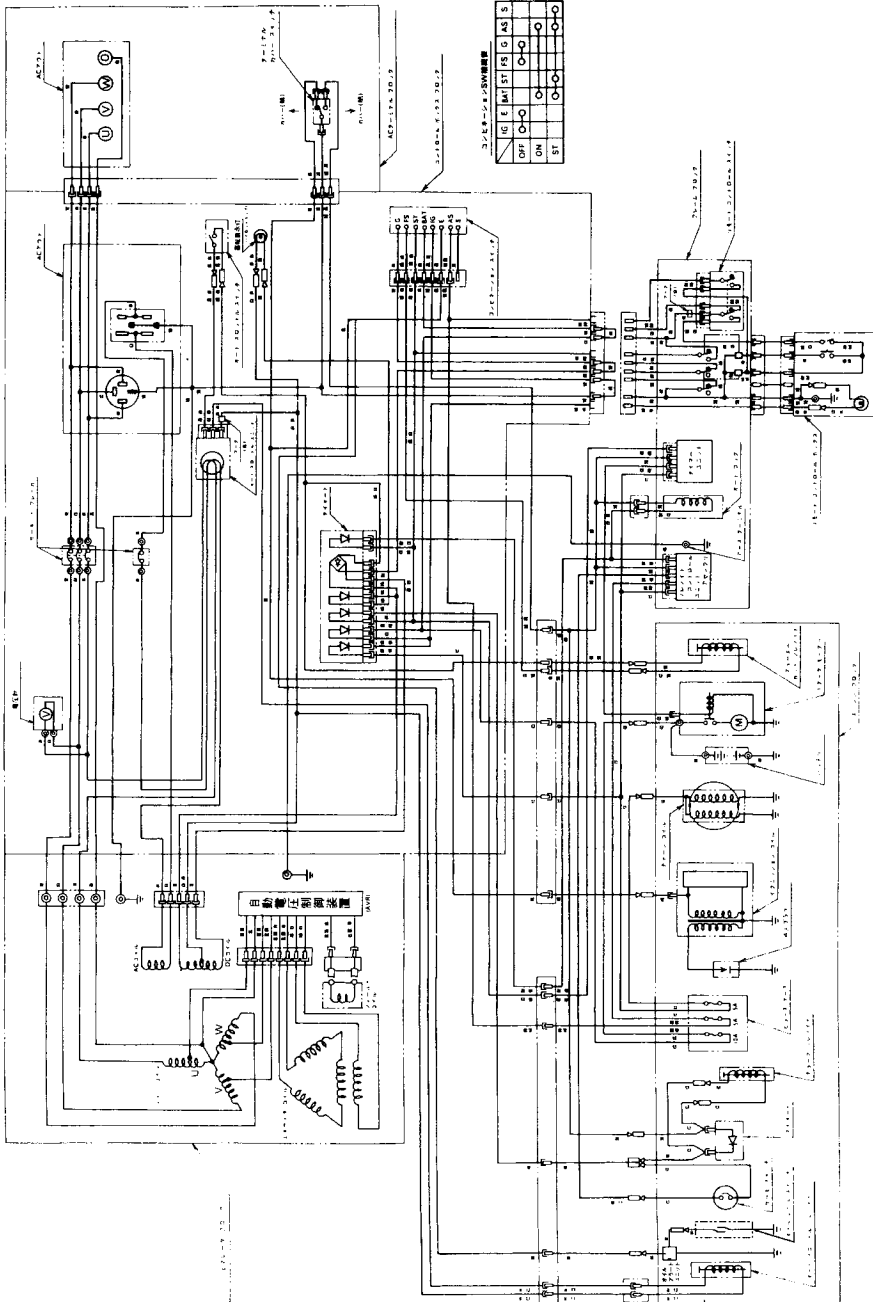
EXT4000の使用できる範囲

使用内容				使用できる範囲
三相	200V		三相モータ	1台を起動する時の負荷 2.2kWまで
			モータ以外：コンクリートバイブレータ・建築用作業機 など	J型−3.5kVA N型−4.0kVA まで
単相	100V		ドリル・建築用作業機 など	0.5kVA まで
			照明・電熱器 テレビ・ラジオ など	0.5kVA まで
三相200Vと単相100Vを同時に使用する時は、その合計がJ型−3.5 kVA、N型−4.0 kVAを越えないでください。 モータは起動電流の多い製品、または種類によっても使用できない場合があります。 詳しくはお買い上げ販売店またはサービス店にご相談ください。				

上記の範囲内でご使用ください。

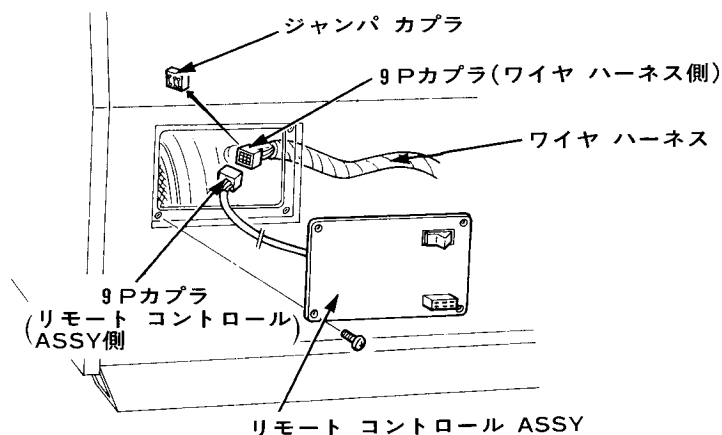
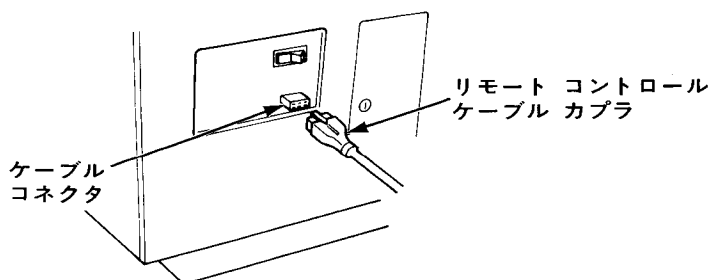
安定器の付いた放電タイプのランプ（水銀灯、メタルハライドランプ等）を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。発電機や使用器具に不具合が発生するおそれがあります。

使用する負荷によっては発電機とのマッチング上不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

配　線　図

別 売 部 品

リモート コントロール キット

取付け手順

1．前面カバーを取外し、ワイヤ ハーネスのジャンパ カプラを外します。
2．リモート コントロールAssyの９Pカプラをワイヤ ハーネスの９Pカプラに接続します。
3．リモート コントロールAssyを４本のビスで本機に取付けます。

4．リモート コントロール ケーブルのカプラをケーブル コネクタに接続します。

⚠注意
- リモート コントロール スイッチ ボックスに水をかけないでください。
- リモート コントロール ケーブルの周囲には物を置かないでください。

始動のしかた

⚠警告

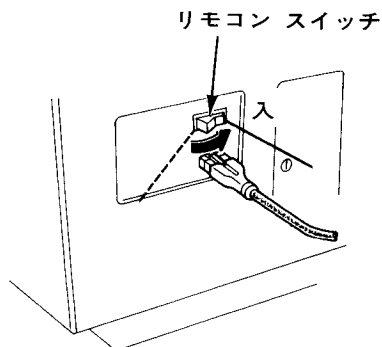
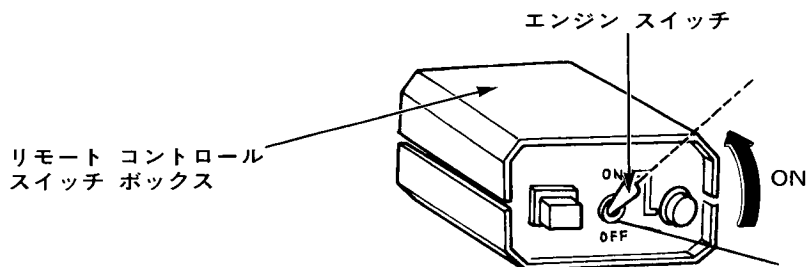
屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

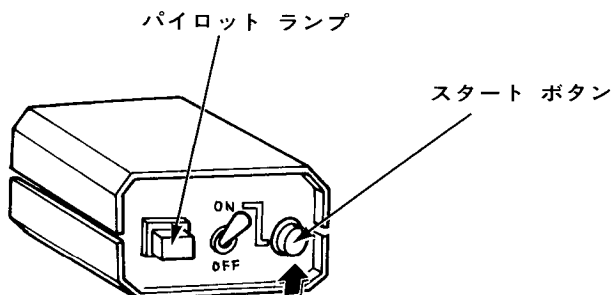
発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあり、ブレーカが〝切(OFF)〞であることを確認してください。使用器具が接続されたままでブレーカが〝入〞になったまま始動すると使用器具が不意に作動を始め思わぬけがや事故を起こす可能性があります。また始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

1．エンジン スイッチ キーを〝停止〞の位置にするか、あるいは、抜き取っておきます。
2．オート スロットル スイッチを〝切〞の位置にします。(23頁参照)
3．リモコン スイッチを〝入〞の位置にします。

⚠注意

リモート コントロール キットを取付けた場合、発電機側でスタートするときはリモコン スイッチを必ず〝切〞の位置にしてください。

4．リモート コントロール スイッチ ボックスのエンジン スイッチを〝ON〟の位置にします。

取扱いのポイント

初めて燃料を入れた時、又は長期保存、ガス欠後始動する場合には、エンジンスイッチを〝運転〟の位置にして10〜20秒待ってから始動してください。

5．リモート コントロール スイッチ ボックスのスタート ボタンを押しエンジンを始動します。エンジンが始動するとパイロット ランプが点灯します。

取扱いのポイント

- セルモータは大電流を消費しますので5秒以上の連続使用は避けてください。5秒以内で始動しなかった場合は、いったんスタート ボタンから手をはなして10秒以上休んでから再び始動の操作を行ってください。
- 運転中はスタート ボタンを押さないでください。始動装置を破損することがあります。

6．２～３分間暖機運転を行ないます。暖機運転をするとエンジン回転が安定し、電圧変動がなくなります。エンジンが暖まったら、オート スロットル スイッチを〝入〟の位置にします。(24頁参照)

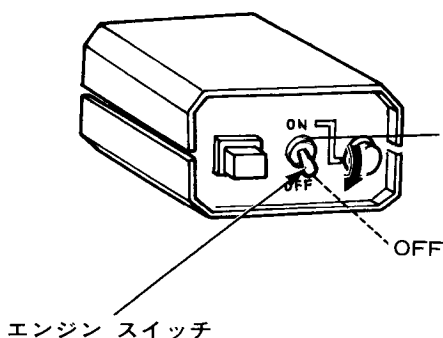
電気の取出しかた

・電気の取出しかたは25～31頁を参照してください。

緊急停止

リモート コントロール スイッチ ボックスのエンジン スイッチを〝OFF〟の位置にします。

通常の停止

1．使用器具のスイッチを切ります。
2．ブレーカを〝切〟の位置にし、差込みプラグを抜きます。
3．リモート コントロール スイッチ ボックスのエンジン スイッチを〝OFF〟の位置にします。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名